令和５年度　府立海洋高等学校　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階・実施段階　）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
家庭・地域社会及び関係機関との連携を図り、自ら課題を発見し解決する能力を備えた、未来を切り拓き地域創生に資する水産・海洋のスペシャリストを育成する。 （重点・新規項目） 1　「京都府教育振興プラン」の推進及び「府立高校の在り方ビジョン」に沿った学校経営 2　新学習指導要領の円滑な実施 3　生徒１人１台学習用端末の円滑な実施 4　学校運営協議会の取組も踏まえ、地域創生に資する人材育成 5　スクール・ミッションに基づくスクール・ポリシーの策定 6　オリエンテーション合宿の適正な実施及び研修旅行の成功	（成果） 1　家庭との連携及び教育相談会議やケース会議等の実施による個に応じた支援で、黒潮寮生を含めた生徒の生活を安定させている。 2　進路について、地元の水産・海洋関連産業に７名が就いた他、ほとんどが学習内容を深化・発展させる分野に進んだ。また、国公立大学30年連続合格や公務員４名を始めとする幅広い分野の、質の高い進路実現を果たしている。 3　実践的な教育活動により、本校の持ち味を生かした研究活動に取り組むとともに、教育長表彰に73％該当、マリンマイスター顕彰対象生徒も62名と多く（うち特別表彰６名）、レベルの高い資格を取得する生徒数が持続し、大会やコンテスト等への出場・入賞でも実績を積んでいる。 4　ほとんどの生徒が何らかの部活動に加入し、高校生活の充実に努めるとともに、高校新記録樹立を始め、国際大会や全国大会出場等の実績を重ねている。 5　生徒会活動並びに図書館活動の充実により、生徒が多様な価値観をもち、学習・研究活動の幅を広げている。 6　宮津商工会議所との連携協定によるキャリア教育の充実や学校運営協議会による地域の魅力を感じさせる教育活動ができた。 7　キャリアプランニング・サポート（小中学校への学習・体験等提供）並びにコラボ推進プログラムに京都府北部の多くの児童・生徒が参加し、本校並びに水産・海洋関連産業等への理解を深めてもらうことができた。 （課題） 1　生徒、保護者等と教職員との信頼関係構築の一層の推進及び中学生、地域の方等から信頼され、憧れの対象となる魅力ある教員像の確立 2　新学習指導要領の円滑な実施、評価の充実 3　中学生及びその保護者等から求められる学校像の構築と、目的意識の高い志願者数確保に繋がる迅速かつ効果的な教育活動の発信及び広報活動の実施 4　生徒１人１台学習用端末活用の充実 5　コロナを契機とする工夫・改善事項を踏まえた諸取組の適切な実施及び働き方改革の推進 6　ボランティア活動等、コロナ禍以前の特色ある取組の適切な実施 7　個に応じた指導・進路保障の推進及び指導状況の共有 8　下宿・家庭・黒潮寮における好ましい生活の支援 9　教育課程への反映による中期経営目標の具現化	1　普通・専門教育の充実と希望進路の実現 (1)生徒１人１台学習用端末の活用を基にした、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。 (2)授業（実習）改善と海洋プロジェクトの充実により、進路の選択・決定における自己実現を支援する。 (3)地域人材を活用したキャリア教育や外部機関等とのつながりを充実させることで、府北部活性化のために何ができるようになるかを展望させ、地域創生に結びつける。 (4)思考力・判断力・表現力の醸成を基に、校内外の連携や課題の共有に努めながら、探究活動の質をより向上させる。 (5)読書活動・図書館活動の充実を図る。 2　基本的生活習慣の定着 (1)生徒指導提要の改訂を踏まえ、「生徒心得」等生徒指導の考え方を共有し、一貫した指導体制の確立を図るとともに、それぞれの課題に応じた指導を推進する。 (2)道徳性や規範意識を大切にし、状況に応じた行動（ふるまい）ができる人間性を育む。 (3)成年年齢引き下げを踏まえ、社会人としてより一層責任と自覚ある行動を促す。 3　心の育成 (1)系統的な人権教育により、生活の中に生かされる指導を行う。 (2)日常的な声かけに努め、成長を確かめ合いながら自己有用感を育む。また、主体的な行動を促し公共心を育成する。 (3)互いの個性や多様性を認め合い、生かしながら共に学ぶ仲間づくりを進める。 4　安心・安全・衛生管理の徹底 (1)実習（実習船含む）に常に緊張感を持って臨むとともに、点検・確認や円滑な情報伝達及び共有を怠らず、安全第一を徹底する。 (2)生活全般において法やルールを守り、他者を思いやる気持ちを行動につなげる能力や態度を育成する。 (3)新型コロナ対応で得られた対策や対応の手法等を継続する。 5　広報活動の充実と家庭・地域との連携強化 専門学科や進路、部活動等の取組を中心とする迅速かつ積極的な広報に努め、本校の魅力を発信、アピールする。 6　職場改革の推進 (1)職員それぞれが職務にやり甲斐を感じ、Well-beingの実現が図れるよう職場環境の改善を図る。 (2)DXの推進等を通じた働き方改革により、生徒と向き合える時間を確保するとともに、学校職員としての資質向上に努める。 (3)職員がお互いを慮り合いストレスの軽減に務めるとともに、業務の共有・協働・分担、分掌等の枠にこだわらないOJT、スキルの伝承を推進する。

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織・運営	個に応じた指導の推進と指導状況の共有等を通じ、教育活動の充実を図る。	・学校経営計画の各評価領域の具体的方策について、目標に対する進行状況を点検・共有等することにより、高い達成状況を実現する。				・
	本校の魅力を積極的に発信するとともに、志願者数の増大を図る。	・特色ある教育活動を推進し、専門教育の内容をさらに充実させるとともに、志願者数を増加させ、定員を充足させる。また、教育内容についての広報をさらに充実させる。				・
	職場環境の改善を図るため、働き方改革を推進する。	・Teams等の活用によるICT化を推進することで、各分掌からの配布文書のペーパーレス化を図るとともに情報伝達の即時性・効率化及び業務縮減に努める。 ・行事及び業務の焦点化や精選、分掌業務の平準化や協働等により、時間外勤務時間の短縮を図る。				・
総務企画部	専門学科や進路、部活動等の取組を中心とする中学生目線を基にした積極的な広報に努め、本校の魅力を発信、アピールする。	・「ホームページ・広報資料・学校説明会」を軸に、受け手（保護者、中学生等）を意識した内容の精選や質の向上等を図り、本校の魅力を効果的に発信する。（ICT化の推進）				・
	系統的な人権教育により、生活の中に生かされる指導を行う。	・系統的な人権教育を推進するために、次の４項目を掲げる。 ①計画的な人権学習・人権講演会の実施　②人権だよりの発行 ③文化委員会の人権啓発の取組　④道徳教育取組まとめ				・
教務部	カリキュラム・マネジメントの推進により教育活動の質を高め、学習効果の最大化を図る。	・新学習指導要領に基づき、より適切な学習評価に留意した年間学習指導計画や指導シラバスを編成し、各科目の円滑な授業進行を目指す。				・
	新学習指導要領に基づき、より適切な観点別評価の実施と教科指導力の向上を図る。	・公開、研究授業への参加や、観点別評価等の新学習指導要領への円滑な移行を目的とした研修を実施し、教員の指導力と生徒の学力向上を目指す。 ①公開授業への参加１人当たり３回以上 ②観点別評価に関する会議や研修会の実施４回以上 ③年次進行を踏まえた新３観点別評価の実施率85％以上				・
	端末機器等のＩＣＴ活用を推進し、社会のデジタル化への対応力を高める。	・教職員のICT機器の活用を推進することで、生徒の授業理解を促し、生徒の学力向上に繋げる。 ①ICT機器活用に関わる参集型研修やメンション７回以上 ②教科毎のデジタルコンテンツ整備（製作等）数２個以上 ③学習時間伸長に向けた学習時間調査を学年部や学科・コース、部活動等で推進し、入力率向上を図る。				・
	読書活動を通してことばの力を高め、豊かな思考力を醸成する。	・読書活動を推進して生徒の健全な成長を促すことで、学校生活をより充実したものとする。 ①50％以上の授業科目で図書室活用による探究活動を推進する。 ②図書委員会による読書推進に関わる教職員アンケートを実施し、その有効性について高い評価を得る。 ③図書室で１冊以上本を借りた生徒の割合85％以上				・
生徒指導部	生徒が主体的・自発的に成長や発達する過程を支える活動を推進する。	・生徒会や委員会が中心となり、生徒が自主的・自発的に校則を守る活動を推進する。				・
		・交通安全や交通ルールについて、生徒が主体的に規範意識やモラルを高める取組を推進し、交通事故防止に努める。				・
進路指導部	学年部及び関係分掌・コースと連携を図り、進路実現に向けての統一した指導を実践し、希望進路を実現させる。	・進路検討会議等で進路に関する情報の共有化を図り、個に応じた適切な指導を展開することにより、希望進路の実現に向け生徒が主体的に取り組む意欲と態度を育成し、実現させる。				・
保健部	「学校の新しい生活様式」に基づき、学校生活を安心・安全に送ることができるよう、継続的な感染予防対策を定着させる。	・各分掌と協力し、「新しい生活様式」に基づいた校内的な対策の見直しを図りながら継続的な感染症予防対策の定着を目指す。 ・「新しい生活様式」の生徒・保護者への周知、検温等の生徒の健康状態の把握、出欠席の状況把握を的確に行い、継続的な予防対策の定着を目指す。				・
	施設点検及び清掃時の点検を定期的に行い、改善が必要な箇所の早期発見に努め、生徒の学習環境や学校の衛生環境の充実を図る。	・各クラスの環境美化委員や保健委員と連携し、校内の学習環境の定期的な点検を行う。また、事務部や衛生委員会と連携しながら校内の衛生環境の充実に努める。（月１回の学習環境チェック、学期に１回の衛生環境の把握を目標とする。）				・
	支援を必要とする生徒に対して、情報のとりまとめを行い、各分掌と連携したきめ細かい組織的な支援に努める。	・日頃より学年部を中心にＳＣと連携しながら生徒の状況把握に努め、状況に応じて迅速なケース会議、教育相談会議等を開催し、生徒の個別支援内容の共有化を図るとともに、健やかな学校生活を送るための支援を充実させる。				・

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
事務部	円滑な教育活動が展開できるように効果的で適切な業務執行に努める。	・事務室業務において、錯誤、失念などにより業務遅延を招かないために、事務室全体の業務進行を規定による月点検の他、業務ミーティングなどで全事務職員で把握する。		・
	安心・安全な教育環境の維持と改善を図る。	・京都府における施設設備の長寿命化政策を踏まえ、本校においても現在の機能を維持できるよう安全点検を行い、適切な環境維持に努める。		・
みずなぎ	全ての航海実習を通して安全・安心を徹底する。	・乗船実習時、前における集合操練を実施するとともに、救急コール携帯の徹底を図る。		・
	組織・運営と連携し、小・中学校の体験航海の増大を図るとともに一般団体の体験航海も受け入れる。	・組織・運営と打合せをし、年間の体験航海を増大させる。		・
	航海船舶コース・学校外機関と連携しアカムツの改良網について研究を深める。	・実習担当教員と連携を深め、知識や技術の向上に努める。		・
	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を継続させる。	・５月から緩和されるが、引き続き船内消毒を行う。		・
寮・下宿運営部	定員増加に対応するための寮運営の確立	・今後、寮の定員増加が見込まれる中、大規模寮を見据えた寮運営の改善及び確立を目指す。		・
	寮運営のマニュアル化	・新規の寮・下宿運営部員または外部舎監が円滑に寮運営を行えるよう、寮運営に関わり明文化されていないものをマニュアル化する。		・
	寮生の自発的な行動を促す取組の展開	・生徒自身が日課や規則に対する意味を認識しながら生活できるような前向きな取組を展開し、生徒が主体的に寮生としての自覚と誇りを持てるようにする。		・
第１学年部	教科・分掌等と連携を図り、学習に関する基礎的環境整備と個に応じた指導に努める。	・学力向上の取組を行い、成績上位者数の増加を目指す。		・
	希望進路の実現を目指す上で、学力向上とキャリアアップを図る。	・進路実現に向けてのキャリアアップとして、資格取得を促進させる。		・
	日々の学校生活を大切に過ごすとともに、基本的生活習慣の確立を目指し、適切に行動できる生徒を育てる。	・教科、学科・コースと連携を図り、日常的な点検や声掛けを行う。		・
第２学年部	希望進路の実現に向け、個々の実績づくりをサポートする。	・自己理解、職種や進路についての理解を深め、進路希望を具体化する。		・
	規範意識を持たせ、社会性を向上させる。	・教科担当者と担任の連絡を密にし、提出物の未提出者数を減らす。		・
第３学年部	希望進路実現及び高校生活を全うさせること	・進路指導部と協働して、面接指導や補講等を行い、第一希望の合格率を上げる。		・
		・卒業まで気を抜かぬよう、個に応じたきめ細かな指導を徹底する。 ＜数値目標＞ ①学習成績優秀者数24名、②欠点総数ゼロ、③欠課時数超過ゼロ、 ④教育長表彰７割以上、⑤令和５年度皆勤者12名以上		・
BYOD運営部	1　一人一台端末導入に係るハード面、ソフト面の環境整備を行い、ICTを円滑に利用できる学校づくりに取り組む。 2　ICTの利点と危険性を理解し、教職員が教育の質の向上に利活用できる知識と技能の向上に取り組む。	・端末活用ガイドブックの改善等、生徒が端末を安心・安全に利活用できる環境整備に取り組む。		・
		・ICTを活用した教育活動を推進するために、学校図書館を利用した教育実践等、本校に適した具体的な指導方法を創出する。		・
		・BYOD運営部の定期会議で、教育の質の向上や働き方改革に役立つ研修を行い、教職員のICT利活用に関する資質と能力を計画的に向上させる。		・

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
海洋科学科	「個別最適な学び」や「協働的な学び」を一体的に充実させ、進路選択・決定における自己実現を支援する。	・第３学年において、希望進路を実現させる。		・
	「課題研究」分割履修（今年度開始）の運用方法を検討し、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。	・課題研究の成果について、発表する機会を設ける。		・
航海船舶コース	専門性の高い資格・検定に挑戦することにより、主体的に学習に向かう姿勢を身に付けさせるとともに、専門性の涵養に努める。	・ICT活用や補習等を推進し、自ら学ぶ姿勢を育成する。 （三級・四級海技士、第二級海上特殊無線技士、一級・二級小型船舶操縦士、漁業技術検定）		・
海洋技術コース	生徒の専門性の向上及び関連進路先への就職、進学	・海洋技術コースに関連する資格取得・検定合格を通じて、生徒の専門的な知識や技術の習得を図る。また、企業見学や業務体験を通じて進路意識の向上を図り、コースに関わる進路指導へと繋げる。		・
	外部との連携強化及び研究内容の検討と深化	・丹後半島沿岸海域の環境保全及び地域振興を目標とした活動を展開する。また、各種堆肥の製造及び栽培実験等の研究を外部と連携し、里海エコサイクルの更なる深化を図る。		・
栽培環境コース	学習した専門的な知識と技術を定着させ、社会で活躍できる資質と能力を育成する。	・増養殖に関わる資格取得を推進し、知識・技術の習得に繋げる。 （一級・二級小型船舶操縦士、栽培漁業技術検定１級・２級、漁業技術検定、潜水士等）		・
	個に応じた指導を行い、希望進路の実現させる。	・コース面談を行い、希望進路や生徒個々の状況を把握し、進路実現や課題解決に必要な指導や助言を実施する。		・
	先進的な増養殖技術や、ICTを活用したスマート水産業について学習し、次世代を担うために必要な知識と技術を習得する。	・外部講師を招いた学習や、プログラミングやICT機器を用いた増養殖技術について学習する。		・
食品経済コース	高校生レストランの活性化を目指し、生徒の自己有用感を育む。	・自分の学校に誇りを持つ生徒を育成する。		・
	関係機関との連携を推進するとともに、地域活性化につなげる。	・地元の低利用資源を活用した高校生レストランやこども食堂を実施する。		・
	コース内での研修を十分に行い、生徒の希望進路実現を目指す。	・定期的に研修会を実施し、知識・技能の伝承を行う。 ・京都府内関連企業への就職を推進する。		・
国語科	基礎学力の定着と、国語に対する意欲・関心を高め、すべての教科の基礎となる国語力の向上に努める。	・生徒のことばの力を高めるため、文章検定及び漢字検定の受検を勧める。		・
		・読書活動の充実を図るため、下記の取り組みを行う。 ①長期休業中における、読書活動推進のための課題の設定 ②読書アンケートの実施 ③図書館オリエンテーションの実施 ④探究活動につながる図書館やウェブ上の情報活用の指導 ⑤図書館資料を利用した探究活動		・
		・授業時間の３分の１について、ＩＣＴを活用する。その際、教員と生徒のやりとりのみならず、生徒同士の「協動的な学び」を意識した授業実践を月に１度以上行う。		・
地歴・公民科	地歴・公民科に対する関心・意欲・態度を醸成することで、国際社会で生きる日本人としての意識を涵養し、確かな学力を身に付けさせる。そのために、思考力・判断力・表現力を高める指導力を向上させ、主体的・対話的な学びにつながる授業改善を行う。	・ニュース時事能力検定準２級における合格率を向上させる。		・
		・定期的に小テストを実施するなどし、学力定着に取り組む。		・
		・問いを考察し、表現する学習の実践により、授業満足度を高める工夫に努める。		・
		・実践的な発表授業を実践し、生徒自身の自発性を高める。		・

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
数学科	基礎学力の定着と生徒一人一人に合わせた指導を確立することで、思考力・判断力・表現力を伸ばすとともに、主体的に学習に取り組む態度を育成する。 数学検定の受検を促し、数学への興味・関心と資格取得に対する意識を高める。	・以下の４項目の達成を目指す。 ①成績不認定生徒０名 ②家庭学習を習慣化させるための指導法の確立 ③観点別評価の年次進行に備えて、教科内での情報の共有 ④数学検定の合格率の向上				・
理科	理科の授業を通じて論理的な思考力・判断力・表現力の醸成に努める。そのために、BYODに対応したICT教材の推進や観点別評価に対応した授業づくりを推進する。	・１年生の「化学基礎」、２年生の「科学と人間生活」、「生物基礎」にて、個人端末のiPadを活用した以下の取組を行う。 ①iPadを活用したグループワークの取組 ②プリントなどの教材をiPad上で取り組ませ提出させること ③Formsを活用したリアルタイムでの送受信の取組 ④実験や観察を通して、なぜそうなるのかを考えたり、意見交換したりする場面を設定し、コミュニケーション能力や論理的思考力を育てる取組 ⑤教科書の二次元コードから見ることができる実験動画等を活用し、学習内容の理解の深化につなげる取組				・
		・観点別評価に向けて定期考査以外の単元ごとの評価材料を増やし、評価方法を確立する。				・
保健体育科	安全に授業を進めるとともに、学力向上と希望進路を実現し得るたくましい生徒を育成するため、体力向上を目指す。	・体育の授業中における通院を要する事故・ケガを減少させる。（昨年度５件）				・
	保健体育科の取組をホームページに掲載し、本校の教育活動の発信に努める。	・ホームページ掲載回数を増加させる。（昨年度２回）				・
芸術科（美術）	生徒１人１人が作品と向き合う中で、高い意識をもって制作に取り組めるよう、授業規律の確保と授業態度の向上に務める。	・計画的に制作活動に取り組ませ、作品を期限内に完成させ、提出させる。				・
家庭科	生活的自立の能力を形成するために、自ら考え判断できる力と、他者と共存できる力を育成する。	・家庭生活に関する基礎知識の学習プリント記入状況を確認し、学習内容の定着を把握する。				・
英語科	生徒が主体的に学びに向かう姿勢を育み、基礎力の定着を図るとともに、４技能５領域を意識した学習指導を行う。	・プレゼンテーション・スピーキングテストなど、パフォーマンス課題を課すことにより、生徒の英語学習へのモチベーションを高める。				・
		・４技能５領域の英語力をバランス良く高めるため、実用英語技能検定の受検を促し、合格者数の増加を図る。				・